

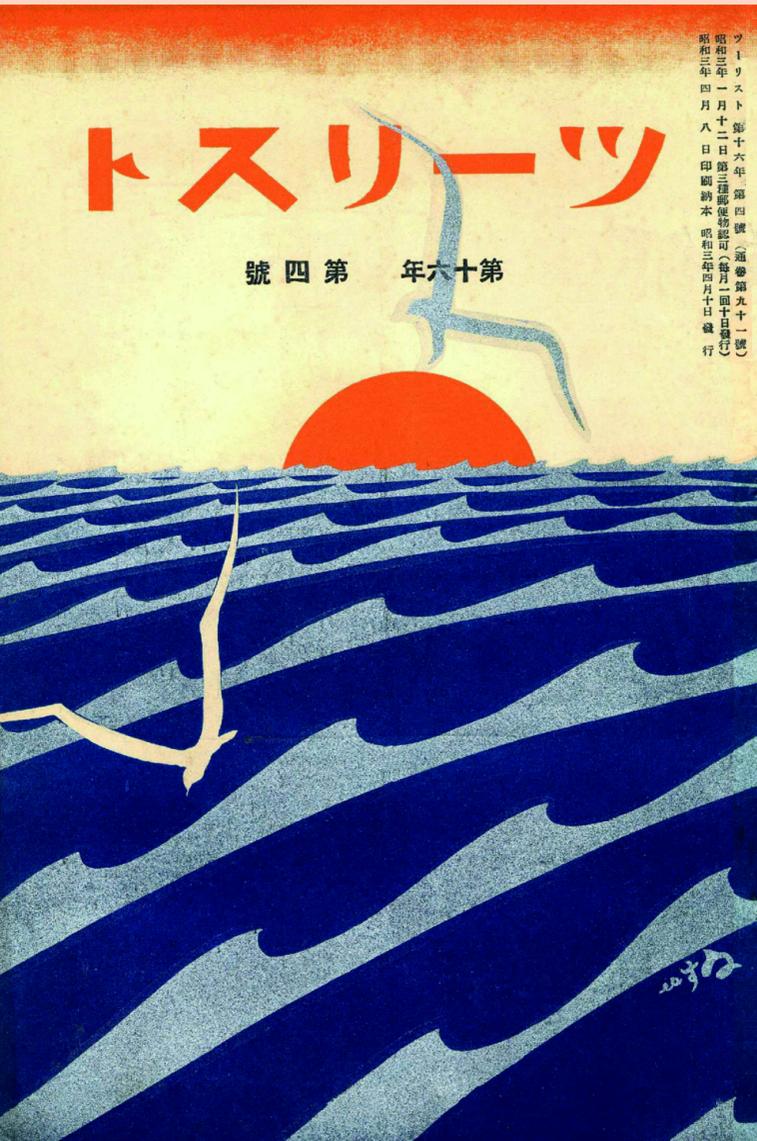
ジャパン・ツーリスト・ビューロー

ツーリスト

第Ⅱ期 昭和篇
全29巻+別巻1

◆監修・解説◆荒山正彦 関西学院大学教授

◆総監修◆旅の図書館



大正を経て、より近代的な昭和の「旅行」へ。全号を唯一所蔵する「旅の図書館」の協力により『ツーリスト』全一八九号、完全な姿にて復刻!!



ジャパン・ツーリスト・ビューロー ツーリスト 第Ⅱ期・昭和篇 全29巻+別巻1

【監修・解説】荒山正彦 ●揃定価：本体714,000円+税 ISBN978-4-8433-5642-5 C3326 A5判上製/クロス装/カバー

- 第1回記本・全6巻
 - 揃定価：本体144,000円+税 ISBN978-4-8433-5643-2 C3326 2019年12月刊行予定
 - ◆第1巻◆昭和2(1927)年1月/3月/5月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5650-0 C3326
 - ◆第2巻◆昭和2(1927)年7月/9月/11月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5651-7 C3326
 - ◆第3巻◆昭和3(1928)年1月~3月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5652-4 C3326
 - ◆第4巻◆昭和3(1928)年4月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5653-1 C3326
 - ◆第5巻◆昭和3(1928)年7月~9月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5654-8 C3326
 - ◆第6巻◆昭和3(1928)年10月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5655-5 C3326

- 第2回記本・全4巻
 - 揃定価：本体96,000円+税 ISBN978-4-8433-5644-9 C3326 2020年5月刊行予定
 - ◆第7巻◆昭和4(1929)年1月~3月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5656-2 C3326
 - ◆第8巻◆昭和4(1929)年4月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5657-9 C3326
 - ◆第9巻◆昭和4(1929)年7月~9月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5658-6 C3326
 - ◆第10巻◆昭和4(1929)年10月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5659-3 C3326

- 第3回記本・全4巻
 - 揃定価：本体96,000円+税 ISBN978-4-8433-5645-6 C3326 2020年11月刊行予定
 - ◆第11巻◆昭和5(1930)年1月~3月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5660-9 C3326
 - ◆第12巻◆昭和5(1930)年4月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5661-6 C3326
 - ◆第13巻◆昭和5(1930)年7月~9月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5662-3 C3326
 - ◆第14巻◆昭和5(1930)年10月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5663-0 C3326

- 第4回記本・全4巻
 - 揃定価：本体96,000円+税 ISBN978-4-8433-5646-3 C3326 2021年5月刊行予定
 - ◆第15巻◆昭和6(1931)年1月~3月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5664-7 C3326
 - ◆第16巻◆昭和6(1931)年4月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5665-4 C3326
 - ◆第17巻◆昭和6(1931)年7月~9月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5666-1 C3326
 - ◆第18巻◆昭和6(1931)年10月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5667-8 C3326

- 第5回記本・全4巻
 - 揃定価：本体96,000円+税 ISBN978-4-8433-5647-0 C3326 2021年11月刊行予定
 - ◆第19巻◆昭和7(1932)年1月~3月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5668-5 C3326
 - ◆第20巻◆昭和7(1932)年4月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5669-2 C3326
 - ◆第21巻◆昭和7(1932)年7月~9月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5670-8 C3326
 - ◆第22巻◆昭和7(1932)年10月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5671-5 C3326

- 第6回記本・全4巻
 - 揃定価：本体96,000円+税 ISBN978-4-8433-5648-7 C3326 2022年5月刊行予定
 - ◆第23巻◆昭和8(1933)年1月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5672-2 C3326
 - ◆第24巻◆昭和8(1933)年7月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5673-9 C3326
 - ◆第25巻◆昭和9(1934)年1月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5674-6 C3326
 - ◆第26巻◆昭和9(1934)年7月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5675-3 C3326

- 第7回記本・全3巻 +別巻1
 - 揃定価：本体90,000円+税 ISBN978-4-8433-5649-4 C3326 2022年11月刊行予定
 - ◆第27巻◆昭和10(1935)年1月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5676-0 C3326
 - ◆第28巻◆昭和10(1935)年7月~12月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5677-7 C3326
 - ◆第29巻◆昭和11(1936)年1月~6月 定価：本体24,000円+税 ISBN978-4-8433-5678-4 C3326
 - ◆別巻◆総目次・解説 定価：本体18,000円+税 ISBN978-4-8433-5679-1 C3326

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 http://www.yumani.co.jp/

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日 ※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

ご注文書	お名前	〒	TEL	()
ご注文書	お住所			

取 扱 店

●「The Demise of His Majesty the Emperor」 「ツーリスト」第15巻 第1号(1927.3)掲載。昭和期に入った「ツーリスト」の英文冒頭は、大正天皇の崩御について記す。



THE DEMISE OF HIS MAJESTY THE EMPEROR

It is with a profound sense of pain and regret that we have to announce the passing away of His Majesty the Emperor of Japan, the sad event taking place at Hayama Palace on December 25th. His Majesty had been laid up since August, 1926, with an affection of the brain, which unfortunately proved fatal. The Crown Prince, Hirohito, became the 124th Emperor at the moment of the demise of his Imperial father. The era which is marked by the beginning of the new reign has been designated "Showa" (Enlightenment and Peace). The posthumous name of His late Majesty will be announced as the Emperor Taisho, this being taken from the era during which he ruled over Japan. The coffin bearing the Imperial remains will be laid in state in the Chiyoda Castle, the main Imperial Palace in the capital. The funeral service will be held at the Shinjuku Imperial Garden at the beginning of February, by which time Prince Chichibu, the second son of the Emperor, who is now on his way back to Japan from London, is expected to reach home.

His late Majesty, the 123rd Emperor of Japan, was born at Aoyama Palace on August 31, 1879. According to the family custom, he was taken away from the palace of his parents when an infant and placed in charge of Marquis Nakayama, in whose residence in Tokyo he spent the first six years of his life. In 1887 at the age of nine he became the Crown Prince. His marriage with the Princess Sadako, daughter of Prince Kujo, took place on May 10, 1900. He was then 21 years old and his bride one month-short of 16. To this Imperial couple have been born four sons, the first born having now succeeded him as the Ruler of the Empire. The late Emperor ascended the throne in 1912, when he was 34 years old, and occupied it for 15 years.



心 傷 ま し き 春

本年はわがツーリスト・ビューロー創立十五周年に値する。十五年といへば可なり長い月のやうでもあらが過ぎ去つた跡を顧みればきこに矢の如き光陰であつた。いゝもなればこの機会に於て既往を顧み將來に對する抱負を述べ、また十五周年を記念すべき計畫も發表し共にわが事業の前途を展望すべきもあらが、このいたしき春に當りては必らずしも發表成可くこれを差控へ、計畫の如きも事實的に實現するに多かる可き二、三を以て之をたき考である。

たゞ、この際わづの最も考慮すべきは、外人旅客に對する注意である。多敷旅客は往々我が國情勢をよく解せざる結果斯る非時に際するわが愛國民の尊重中心思想の衰へ、世界に比類なき奉仕的眞情に對し誤解し或は不知不諳の間に國民の感情に背く行為なしとも許り難きが、直接外客に接する機多きわづ等は先づ豫めこれ等外客に對しわが國體尊嚴の他、果れるところあるを知らしめ以てわが皇室の有様、わが美はしき國民性を眞に説明せしむるやう努む可きである。

●「傷ましき春」猪股忠次 「ツーリスト」第15巻第1号(1927.3)掲載。ツーリスト・ビューローの十五周年について言及がある。

ツーリスト 1912年に鉄道院協力のもと、「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」が創設される。外客誘致機関として発足したビューローは国内外問わず、さまざまな媒体をと創りて日本の観光イメージを発信する。ビューローはその事業進展を図ることを目的として、1913(大正2)年に機関誌「ツーリスト」を創刊。グラフィック・デザイナー杉浦非水の図案を表紙に採用し、広く国内外に配布された。和文欄と英文欄があり、和文は日本人国内旅行案内、英文は外国人観光客向けのものであり、外国人に向けての日本の旅行案内である。

本書の特色

●日本全国や海外、および植民地の観光案内

「国際的観光地としての台湾」生野団六(1927.3) / 「(特集)欧亜連絡運輸の再開に際して」(1927.3)「紐育(ニューヨーク)より」米国視察団通信(1927.5) / 「国策としての外客誘致」白仁武(1928.1) / 「サンタフェ鉄道に由るアメリカ横断」(1928.4) など、外客誘致のための日本全国の観光案内はもとより、観光航路の発展にともなって、海外への観光を促進する、ヨーロッパ、北米、南洋などの現地レポートが多くの写真資料とともに掲載されている。当時の観光状況を知ることのできる、格好の資料である。また、「Sailing List for Europe, America, Canada & China (海外行主要船路発着表)」「Railway Time-table, Japan, China & Manchuria (内地鮮滿支那行汽車時間表)」といった時刻表なども掲載されている。

●多くの日本文化を海外に発信

英文では、大正から、昭和へと移り、大正天皇の大喪(1927.3)

「The Funeral service and Procession of the Late Emperor Taisho」A.R.Paget)、昭和天皇の即位(「Ceremony of the Imperial Enthronement」1928.11)といった時代のトピックスを多く掲載。また大正期から引き続き、観光地の紹介、年中行事、芸能、工芸品と言った日本文化が、豊富な写真とともに紹介されている。

●旅館やホテルなど施設の改良

「ホテル通義」(連載) / 「国際ホテル同盟会議 ツェルマットの会合」(1927.11) / 「自動車旅行の発展とホテル業」木暮寅(1927.3) / 「米国外国ホテルとその職業教育の発達」剣持確磨(1927.7) / 「何故帝國ホテルは地震で壊されなかったか」フランク・ロイド・ライト(1928.2) など、訪日外国人を迎えるための宿泊施設改良についての論説は、旅行施設が時代と共に、どのような改良を経たかを知り得る貴重な資料群である。

●別巻には新たに解説を附す

復刻に際し別巻には、総目次、詳細な解説を附す。



日本における旅行案内出版の歴史は長く、その種類や形態は多様である。江戸や京の案内書は近世においてすでに数多く出版されており、東海道をはじめとする街道の地図と「道中記」、そして「名所図会」などもさまざまに出版されてきた。明治期を迎えると、旅行のための移動方法は徒歩から鉄道へと次第に移り変わった。そして鉄道をを用いた旅行が一般的となるにつれて、いわゆる「鉄道旅行案内書」の刊行が多くなり始めるようになる。また瀬戸内海などの海上航路を用いた船旅も盛んになり、旅行の空間は海上航路網の拡大に伴い、日本各地から外地や植民地へ、さらには世界の各地へと拡大していった。大正期から昭和戦前期にかけて、旅行案内もさらにその種類や形態を増やしていった。

刊行のことば

他方で、明治初期からは、外国人に対しても日本国内の旅行が次第に開かれていった。明治二六（一八九三）年には、訪日外客の誘致を目的とした會員制の団体である「喜賓会」が設置される。そして喜賓会の外客誘致事業と共通する目的を掲げて、明治四五（一九一二）年にジャパン・ツーリスト・ビューローが創設された。

「ツーリスト」は、ジャパン・ツーリスト・ビューローによって、創設翌年の大正二（一九一三）年六月に創刊された旅行雑誌である。第一号と第二号は和文欄のみの雑誌であったが、第三号以降には The Tourist というタイトルの英文欄が設けられ、昭和一一（一九三六）年六月までの全一八九号まで縦組みの和文欄と横組みの英文欄とが合本された形で発行が継続された。創刊年から昭和二（一九二七）年までは隔月で発行され、昭和三（一九二八）年からは月刊誌として発行された。創刊当初は一号あたり五〇〜八〇ページほどであったが、やがて一〇〇ページを越え、創刊数年後にはコンスタントに一五〇ページ前後で発行は続けられ、昭和八（一九三三）年からは再び一〇〇ページ前後となった。昭和一一（一九三六）年七月の第一九〇号からは和文欄が廃止され、英文欄のみの雑誌 The Tourist となり、さらに昭和一六（一九四一）年五月には Tourist and Travel News に改題され、昭和一八（一九四三）年四月まで発行は続けられた。

「ツーリスト」の記事内容は、例えば日本各地や外地・植民地への旅行案内、旅行状況の解説、観光にかかわるさまざまな統計類、観光政策の提言など、多岐にわたる。旅行を楽しむばかりではなく、同時代の旅行状況をとりまきさまざまな事柄を俯瞰するような定期刊行雑誌であった。以上のように「ツーリスト」は、一九一〇年代から三〇年代にかけての日本の旅行史にとって、欠くことのできない重要な旅行雑誌である。

今回の復刻では、「第一期大正篇」（全二四巻、既刊二〇一七〜一〇一八年）に続き、「第二期昭和篇」として、昭和一一（一九二七）年の第八二号から昭和一一（一九二七）年の第一九〇号までの、和文欄と英文欄が併記された「ツーリスト」が復刻の対象となる。「第二期昭和篇」による復刻は二〇二二年に完結する予定である。こうして雑誌「ツーリスト」全号が復刻されるのは初めてのことである。

ところで、「ツーリスト」は近代における日本の旅行史を読み解くためには欠かせない資料であるが、これまでその利用と閲覧は容易ではなかった。たとえば全国の公共図書館や大学図書館には、「ツーリスト」全一八九号を揃えるところはなく、全号を通覧するためには、複数の図書館への資料調査が求められた。ただこうした状況のなかで、ジャパン・ツーリスト・ビューローの後継機関である公益財団法人日本交通公社では、「旅の図書館」において「ツーリスト」全一八九号を端末のコンピュータによって画面上で閲覧することが可能となっていた。デジタルデータを通しての資料調査は、キーワード検索には大きな力を発揮するが、雑誌の全体を広く眺めるような調査にはやや不便であった。今回の「ツーリスト」全号の復刻では、この「旅の図書館」が所有するデジタルデータの提供を受けることで実現した。創設間もないジャパン・ツーリスト・ビューローによって創刊され二〇年あまりにわたり多くの時間とエネルギーが注がれ刊行された「ツーリスト」全号が、印刷出版物としてふたたび刊行されることに、今回の復刻の大きな意義があると考えらる。

『ツーリスト』第二期・昭和篇 第一回配本 主な収録内容

一九二七年一月第十五巻第一号「紐育の料理店」



紐育の料理店
大塚常吉

一九二七年三月第十五巻第二号 The Funeral Service and Procession of the Late Emperor Taisho



THE TOURIST
The Funeral Service and Procession of the Late Emperor Taisho

一九二七年一月第十五巻第一号 Notes of a Trip to Kyushu



Notes: Onkyoku (Ono Park) at Kyushu
Notes: Exhibition on the Boat of Kyushu

一九二七年一月第十五巻第二号 The Origin and Meaning of the Demon Driving-away Festival



THE TOURIST
Akioka Kamezo Hall, on the Evening of the "Labaan" Festival

一九二七年九月第十五巻第五号「知多半島めぐり」



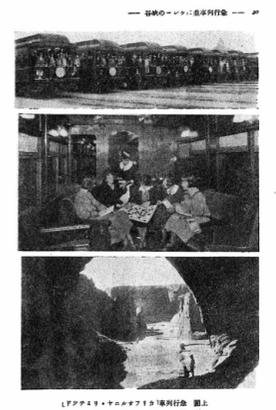
知多半島めぐり

一九二八年二月第十六巻第二号「世界一周観光船」



世界一周観光船

一九二八年四月第十六巻第四号「サンタフェ鉄道によるアメリカ横断」

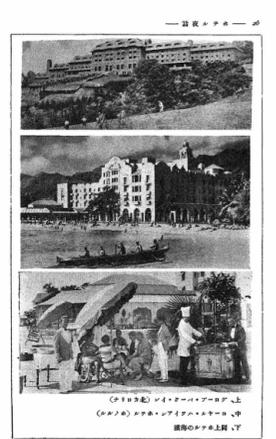


サンタフェ鉄道によるアメリカ横断

一九二八年十二月第十六巻第十二号 Annual Fine Art Exhibition



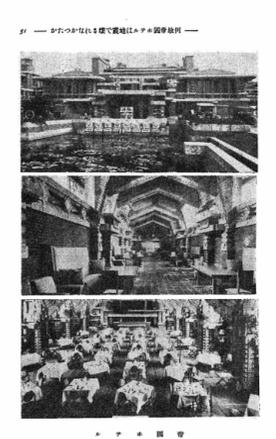
"Aho" by Shiko Yamashita



一九二八年十月第十六巻第十号「ホテル夜話」



一九二七年十一月第十五巻第六号「ツーリスト時事采国視察団」



一九二八年二月第十六巻第二号「何故帝國ホテルは地震で壊されなかったか」



一九二八年十月第十六巻第十号「ホテル夜話」

目次から

- 1927 (昭和2)年1月 第15巻 第1号
扉「大正15年12月25日聖上陛下崩御」／「傷ましき春」猪股忠次／「国力の充実とホテル設備」白仁武／「正直・親切・勉強」阪谷芳郎／「統制の塵」(18) 旅狂生／大正15年ツーリスト事業概観／「霧のみ山」尾上紫舟／「カナダ国立公園の話」田村剛／「ホテルと道路」新婦朝者談／「初冬雑詠」矢島世味／「ある旅舎の娘の印象」白石柚彦／「ホテル通義」(18)／「紐育の料理店」大塚常吉／「スキー」／「クリミヤ紀行」種田虎雄／「タートルの雪」外山高一／「会報」
●Contents for January, 1927 (英文目次)
His Majesty the Late Emperor of Japan / Gentle Breeze on the Sea - this Year's Theme for the Imperial Poetry Contest / The Demise of His Majesty the Emperor (聖上崩御) / What New Year Means to the Japanese A Psychoanalytic Interpretation (新年の意義) [Yae-kichi Yabe (矢部八重吉)] / Landscape Gardening in Japan, Part I (日本の庭園 その1) [Eisaku Waseda] / The Story of Saiyuki, Part I (西遊記 弓筋小鰐述 その1) [C.Okada (岡田千代訳)] / Buddhism and Tea in Japan (仏教と茶の湯) / Notes of a Trip to Kyushu (九州路を巡る) [Ina Metaxa (メタクサ夫人)] / The Japan Alps - Kamikochi (日本アルプス-上高地) [W.H.Bower (W.H.ボアー)] / Ryndam Collage Cruise and Raymond & Whitcomb's Tourist Party (リンダム号大船船及レイモ

- ンド・ワイトカム社観光団) / Of Tourist Interst / The Tourist Calender / Railway Time-table, Japan, China & Manchuria (内地鮮満支那行汽車時間表)
●1927 (昭和2)年3月 第15巻 第2号
「時事雑感」猪股忠次／「雪」矢島世味／「統制の塵」(19) 旅狂生／「国際的観光地としての台湾」生野団六／「自動車旅行の発展とホテル業」木暮寅／「海外ホテルに映する邦人客」福田徳三郎／「喚呼の調べ」特に省線電車にて「外山高一」／「さくら」(吉野、小金井、三里塚)／「春雨傘」山口青郁／「丹那隧道を覗く」大江武男／「支那料理の話」飯尾禎／「諏訪湖スケート雑感」武田圓治／「暮を閉じた費府博覧会」長屋子賀雄／「ホテル通義」(19)／「ツーリストビューロー創立15周年事業」／「ふるさと」横田葉子／「那智丸と熊野周遊」丸山住人／「多摩陵案内」／「哈爾濱案内」／「シベリア日記抄」／「会報」
●Contents for March, 1927 (英文目次)
Spring Scene at Sankei-en Garden, Yokohama / Japan in Spring (日本の春) / The Funeral service and Procession of the Late Emperor Taisho (御大葬を拝して) [A.R.Paget] / The Tama Imperial Mausoleum (多摩陵) / The Taisho Era of Japan (大正時代) [Ernest W. Clement] / The Origin and Meaning of the Demon Driving-away Festival (節分会の話) [Tadao Ashikawa (蘆川忠雄)] / Hanami, or Flower-viewing and Cherry Blossoms Resorts in Japan / A Hike Across Shikoku (四国横断旅行) [F.M.Haven] / A Short Trip to Boshu (房州の旅) [Bernice

- Kent] / Poems: Japan: Greeting (詩・日本) [Jean Palmer Nye] / Uzu Esperanton [Masuzo Inoue (井上萬寿蔵)] / Belgenland Tourist Party / The Yonin Dojoui / Of Tourist Interst / The Tourist Calender / Sailing List for Europe, America, Canada & China (海外行主要船路発着表) / Railway Time-table, Japan, China & Manchuria (内地鮮満支那行汽車時間表)
●1928 (昭和3)年8月 第15巻 第2号
「時事雑感」高久甚之助／「あらい鯉」山口青郁／「仏蘭西に於けるツーリスト事業」(1)／「ホテルの話」大塚常吉／「米国に於けるホテル業の位置」剣持確磨／「ホテル通義」(26)／「巴里の女子ホテル学校」／「両京ホテルの納涼」／「洋行者の為に ツーリスト・ビューローの或る会合にて」／「季節の旅」(東京中心キャンプ地、東海の名勝、宇治川ライン、大和、奥秩父高山植物、日本ライン、天龍)／「猪股忠次氏を憶う」竹内三木三郎／「独逸近事」／「国情紹介展覧会」／「八幡野」二荒芳徳／「編集後記」
●Contents for August, 1928 (英文目次)
Where the air is cool and bracing and the water is clear and sparkling / For a Better Knowledge of Japan (もっと日本の知己を増やしたい) [Jinnosuke Takaku (高久甚之助)] / The Enthronement and Foreign Tourists (御大典と外人旅客) / Brief History of Kyoto / Places of Interest in and around Kyoto (京都市内の名勝) / Kyoto's Fine Art Products (京都の美術工芸品) / Kyoto Grand Exposition, 1928 / Suggestions to Foreinssers Patronizing Japanese Hotels / Kongo-san or Diamond Mountain in Chosen (朝鮮

- 鮮金剛山遊覧の榮) / The Herald's News
●1928 (昭和3)年11月 第15巻 第2号
「時事雑感」高久甚之助／「武蔵野の秋」山口青郁／「奉祝」／「東宮御時代の御外遊を偲び奉る」二荒芳徳／「仏蘭西に於けるツーリスト事業」(4)／「大和、山城にあそぶ」川上小夜子／「西班牙 (スペイン) の観光事業とホテル業に就いて」(1)／「外客誘致に就いて南洋方面への宣伝の必要」新井堯爾／「外客誘致策とホテル建設」剣持確磨／「ホテル通義」(28)／「日光から塩原へ」香月善次／「季節の旅」(京都大博覧会、秩父巡礼、御嶽昇仙峡、名古屋博覧会)／「伊太利に於ける八日間旅程」／「四十年目に見た日本の感想と赤毛布」林廣吉／「編集後記」
●Contents for November, 1928 (英文目次)
The National Anthem of Japan Kimigayo / His Majesty the Emperor / Her Majesty the Empress / The Imperial Palace, Tokyo / Main entrance of the Kyoto Palace / The Origin and History of the Mikado's Crest of the Chrysanthemum Part 1 (菊花御紋章の起源と文獻1) [Tadao Ashikawa (蘆川忠雄)] / Ceremony of the Imperial Enthronement (御大礼諸儀式の概説) / Early Shinto and the Japanese nation with special reference to the coming Enthronement Ceremony (御大典に因む神道と日本国民) [Noritake Tsuda (津田敬武)] / Hinomaru, the Sun Flag of Japan (日章旗の話) [Eisaku Waseda] / Impressions of the Exhibition of Japanese Art by the Independents (一外人の院展印象記) [Ina Metaxa (メタクサ)] / ほか